

平成21年度 群馬県立産業技術センターの利用に関する
アンケート調査 結果報告書

平成22年11月

群馬県立産業技術センター

1 調査概要

(1) 目的

群馬県立産業技術センター（群馬産業技術センター及び東毛産業技術センター。以下、「産業技術センター」という。）のより一層の利便性の向上を図るため、利用企業に対してアンケート調査を実施する。

(2) 調査対象

平成21年度（平成21年4月1日～平成22年3月31日）に産業技術センターの技術支援（依頼試験、機器開放、技術相談）を利用した企業。

(3) 調査方法

「調査票」をFAXにより送付し、FAXにより回答してもらう。

(4) 調査実施数

調査依頼数、回答数及び回答率は、次のとおりであった。

技術支援項目	調査依頼数	回答数	回答率
・ 依頼試験 ・ 機器開放 ・ 技術相談	2, 411社	603社	25.0%

(5) 結果概要

アンケート調査の結果、平成21年度の利用企業のうち目的を達成できた企業の割合は、「十分達成できた」と「ある程度達成できた」を合わせると78.4%、「手がかりがつかめた」を加えると96.5%であり、ほぼ全ての利用企業にメリットがあったと考えられる。

また、今後も産業技術センターを利用したいと考えている企業の割合は、「積極的に利用したい」と「必要のあるときに利用したい」を合わせると99.7%であり、ほぼ全ての利用企業が再度利用したいと考えていた。

2 調査結果

(1) 利用企業の資本金・従業員数等について

- ・ 資本金は「3億円未満」が75.8%、従業員数は「300人未満」が75.2%であり、中小企業の割合が高かった。
- ・ 産業技術センターの利用は、「ほぼ毎年利用している」と「前に利用したことがある」を合わせると71.9%であり、リピーターの割合が高かった。

内訳は、次のとおりであった。

① 資本金について

- | | | | |
|--------------|-------|-----------------|-------|
| 1. 1000万円未満 | 8.9% | 2. 1000万円～1億円未満 | 55.5% |
| 3. 1億円～3億円未満 | 11.4% | 4. 3億円以上 | 24.2% |

② 従業員数について

- | | | | | | |
|-------------|-------|-----------|-------|-----------|-------|
| 1. 20人未満 | 18.8% | 2. 20～29人 | 6.6% | 3. 30～99人 | 29.7% |
| 4. 100～299人 | 20.1% | 5. 300人以上 | 24.8% | | |

③ 産業技術センターの利用について

- | | | | |
|----------------|-------|-----------|-------|
| 1. 平成21年度が初めて | 28.1% | 2. ほぼ毎年利用 | 34.9% |
| 3. 前に利用したことがある | 37.0% | | |

(2) 利用企業の目的達成度について

- ・ 目的を達成できた企業の割合は「十分達成できた」と「ある程度達成できた」を合わせると78.3%、「手がかりがつかめた」を加えると96.5%であり、ほぼ全ての利用企業にメリットがあった。

内訳は、次のとおりであった。

① 目的達成度について

- | | | | |
|--------------|-------|--------------|-------|
| 1. 十分達成できた | 39.2% | 2. ある程度達成できた | 39.1% |
| 3. 手がかりがつかめた | 18.2% | 4. 達成できなかった | 3.5% |

② 利用企業が得られた経済効果について

- | | | | |
|--------------------|-------|--------------------|-------|
| 1. 0～10万円以下 | 28.4% | 2. 10～50万円程度 | 33.2% |
| 3. 50～100万円程度 | 17.5% | 4. 100～300万円程度 | 9.8% |
| 5. 300～500万円程度 | 3.3% | 6. 500～1000万円程度 | 4.4% |
| 7. 1,000～3,000万円程度 | 2.0% | 8. 3,000～5,000万円程度 | 0.4% |
| 9. 5,000万円～1億円程度 | 0.6% | | |
| 10. 1億円以上 | 0.4% | (9億円、1億円が各1社) | |

利用企業が得られた経済効果について542社から回答があり、1企業あたりの経済効果は約359万円であった。今回のアンケート調査を依頼した2,411社を乗じて換算すると、全体の経済効果は「約86億5,324万円」であった。

また、平成21年度の産業技術センターの歳出決算額が、8億9,499万円であることから、「約9.7倍」の経済効果があったといえる。

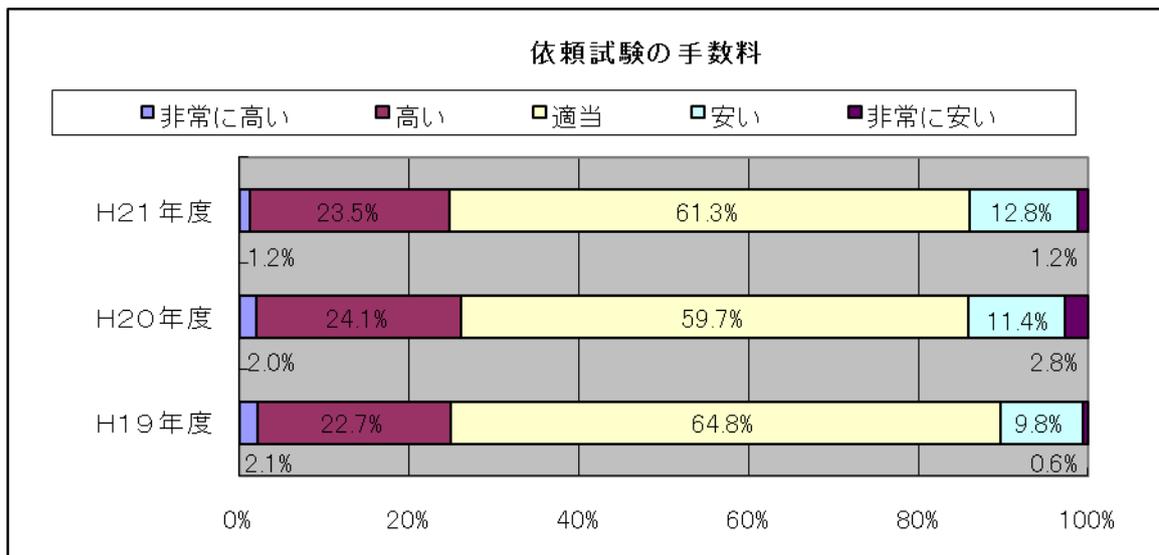
- ③ 未達成の理由については、「必要とする機器・設備がなかった」、「期限までに結果が得られなかった」などの回答があった。

(3) 依頼試験の手数料について

- ・ 料金が「適当」と考える企業の割合は61.3%、「安い」と「非常に安い」を加えると75.3%であり、適当と感じる割合が高かった。
- ・ 過去2年間で、料金が安いと感じる割合が高くなった。
- ・ 反対に料金が「高い」と「非常に高い」を合わせると24.7%であり、件数が多い場合や県外企業などは高いと感じるようであった。

内訳は次のとおりであった。

1. 非常に高い 1.2%、 2. 高い 23.5%、 3. 適当 61.3%、
4. 安い 12.8%、 5. 非常に安い 1.2%

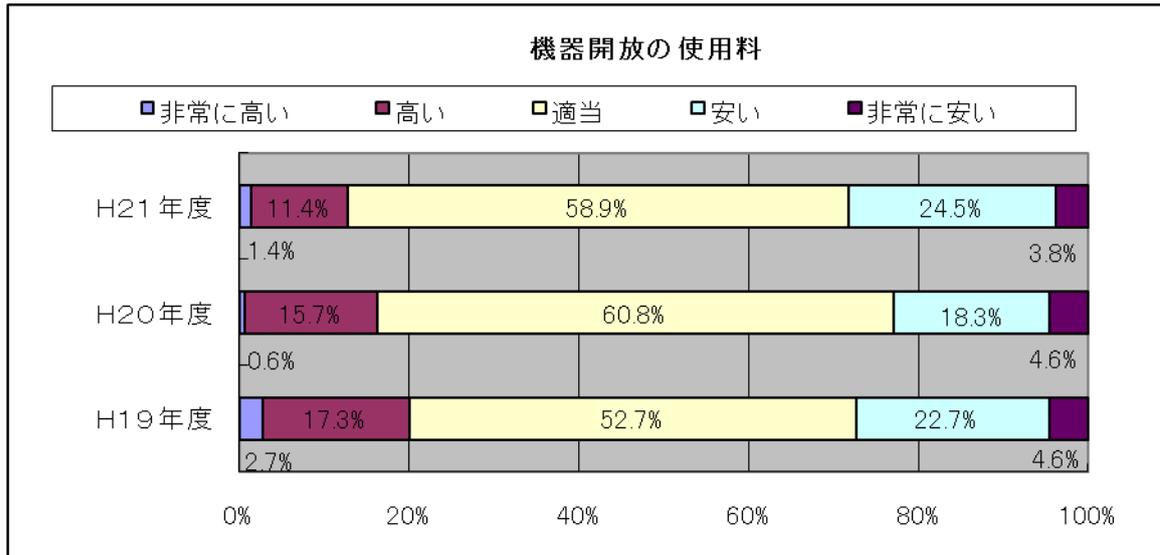


(4) 機器開放の使用料について

- ・ 料金が「適当」と考える企業の割合は58.9%、「安い」と「非常に安い」を加えると87.2%であり、適当と感じる割合がかなり高かった。
- ・ 過去2年間で、料金が高いと感じる割合が低くなった。
- ・ 反対に料金が「高い」と「非常に高い」を合わせると12.8%であり、長時間使用する場合などは高いと感じるようであった。

内訳は次のとおりであった。

1. 非常に高い 1.4%、 2. 高い 11.4%、 3. 適当 58.9%、
4. 安い 24.5%、 5. 非常に安い 3.8%



(5) 今後の産業技術センターの利用について

- ・ 今後も利用したいと考えている企業の割合は、「積極的に利用したい」と「必要のあるときに利用したい」を合わせると99.7%であり、ほぼ全ての利用企業が再度利用したいと考えていた。

内訳は次のとおりであった。

1. 積極的に利用したい 30.2%、
2. 必要のあるときに利用したい 69.5%、
3. あまり利用したくない 0.3%、
4. 利用したくない 0.0%

(6) 今後、強化、充実してほしい技術分野について

- ・ 要望の多い技術分野は、「機械計測・精密測定」、「電子・電気」、「環境・リサイクル」、「食品」、「化学」の順であった。
- ・ その他については、「光学測定」などの回答があった。

内訳は次のとおりであった。

1. ナノテクノロジー 6.3%、
2. バイオテクノロジー 5.1%、
3. 環境・リサイクル 10.7%、
4. エネルギー 3.0%、
5. 電子・電気 10.9%、
6. 機械計測・精密測定 31.6%、
7. 機械加工 7.9%、
8. 化学 9.9%、
9. 食品 10.0%、
10. その他 4.6%

(7) ホームページの利用について

- ・ 「役立っている」と「少し役立っている」を合わせると63.8%であり、役立っていると感じる割合が高かった。
- ・ 反対に「あまり役立っていない」と「必要ない」を合わせると14.6%であり、「知らない」は21.6%であった。

内訳は次のとおりであった。

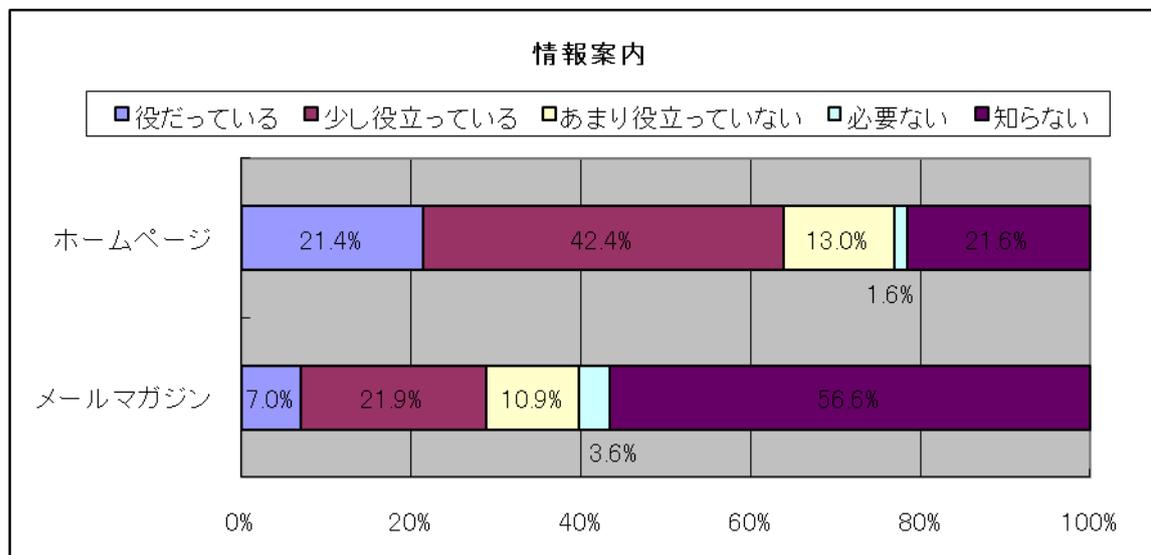
- | | | | |
|---------------|-------|-------------|-------|
| 1. 役立っている | 21.4% | 2. 少し役立っている | 42.4% |
| 3. あまり役立っていない | 13.0% | 4. 必要ない | 1.6% |
| 5. 知らない | 21.6% | | |

(8) メールマガジン（まる得通信）の利用について

- ・ 「役立っている」と「少し役立っている」を合わせると28.9%であり、反対に「あまり役立っていない」と「必要ない」を合わせると14.5%であった。
- ・ なお、「知らない」は56.6%と過半数を超えていたことから、積極的にPRしていく必要がある。

内訳は次のとおりであった。

- | | | | |
|---------------|-------|-------------|-------|
| 1. 役立っている | 7.0% | 2. 少し役立っている | 21.9% |
| 3. あまり役立っていない | 10.9% | 4. 必要ない | 3.6% |
| 5. 知らない | 56.6% | | |



(9) その他、産業技術センターに対する意見・要望等について

- ・ 最も多かったのは、担当者名、係名等を挙げた「職員等への感謝の言葉」であった。
- ・ 以下、「機器・試験項目に関するもの」、「利用料に関するもの」、「手続きに関するもの」の順に、意見・要望が多かった。
- ・ 産業技術センターとしては、寄せていただいた貴重な意見・要望等を踏まえ、より一層の利便の性向上を目指していく必要がある。

全体で162件の意見・要望等があり、主なものは次のとおりであった。

- ・ 職員等への感謝の言葉（67件）
（担当者への感謝、担当係への感謝、産業技術センターへの感謝など）
- ・ 機器・試験項目に関するもの（29件）
（LED照明の測定機、液晶の測定機、集束イオンビーム装置、10m電波暗室、電磁波ノイズの可視化装置などの導入要望、振動試験機の増設要望、試験項目の新設要望など）
- ・ 利用料（依頼試験手数料・機器使用料）に関するもの（15件）
（県外企業の料金の値下げ要望、長期使用時の機器使用料の割引要望など）
- ・ 手続きに関するもの（11件）
（料金支払い方法、ネット予約など手続きの利便性への要望）
- ・ 納期（時間）に関するもの（5件）
- ・ 試験結果に関するもの（5件）